

令和 8 年 2 月 2 0 日

福井市商工労働部観光文化スポーツ局観光振興課

## 「福井市観光振興計画 [令和 8 ～12 年度] (素案)」に関する 福井市パブリック・コメント募集の結果

### 【概要】

本計画は、新幹線や中部縦貫自動車道など高速交通網の整備による交流拡大の機会を捉えた観光振興に取り組んでいくために策定するものです。

このたび、計画の素案についてパブリック・コメントを実施したところ、市民の皆様から以下のご意見をいただきましたので、それに対する市としての考えを示し、公表します。

### 【意見募集結果】

実施時期	令和 7 年 12 月 17 日から令和 8 年 1 月 16 日まで	
意見提出状況	提出者	4 人
	意見数	1 2 件
意見提出方法	書面の持参	0 人
	郵便	0 人
	ファクシミリ	0 人
	電子メール	1 人
	その他	3 人

### 【提出された意見及び意見に対する市の考え方】

#### 項目 1 数値目標や行動計画について (1 件)

	提出された意見	意見に対する市の考え方
1	清水地区・越廼地区では、現場の負担だけが増え、行政の支援は変わらないという構造が続いており、現場は限界である。観光振興計画を実効性あるものにするためには、具体的な数値目標と責任の所在を明記することが不可欠であり、「清水・越廼地区を対象とした明確な数値目標を設定すること」「ボランティア依存をやめ、予算を投じて人を雇うこと」「行政が現場に入り、住民と協働する仕組みを作ること」を計画に明記することを求める。	福井市観光振興計画は、市全体の観光まちづくりの方向性を示すものであり、市内滞在を促す環境を整えることで観光客の周遊を促進し、地域の活性化へとつなげていくことを目的に、今後 5 年間で優先的に取り組むべき施策や行動計画を整理するものです。その数値目標については、本計画が効果的に進められているかを確認するための大局的な指標を設定することとしました。したがって、特定の地域のみに関わる数値目標の設定などはいたしません。具体的な事業の実施にあたっては、地域の皆様のご意見を十分に踏まえるよう努めてまいります。

項目2 素案に対する意見について（11件）

	提出された意見	意見に対する市の考え方
1	<p>本計画の基本理念が、「旅と交流が織りなす『福』を感じる」であるのならば、高齢者、障がい者など、配慮を要する観光旅行者が感じる『福』に欠かさない「バリアフリー化水準底上げ」等の記述が必要。</p>	<p>観光地や観光施設の整備・維持管理においては、多様な背景をもつ人々への配慮が必要であることから、いただいたご意見を踏まえ、基本施策3の行動計画3-5『観光地や観光施設の適切な維持管理』へ、「子どもや高齢者、障がい者などを含む様々な立場の方が本市の観光を楽しむことができる環境づくりに努め」る旨を追記します。</p>
2	<p>行動計画2-1まちなかの魅力アップについて、福井市の歴史そのものが誇り・魅力であり、新しいものを作るより、過去の歴史を少しでも蘇らせることが重要。歴史をアピールする上で最大の課題点があり、お堀内の県庁や県警本部であり、県庁や県警本部をどこに移すのか、県と協議して市民に明確に示してもらいたい。まずは福井市街の魅力発信の中心となるべき福井城址を本来あるべき姿に戻し、そこから周辺の街づくりを考えて行くべき。</p>	<p>本市の豊かな歴史は、まちなか観光を味わうための重要な要素です。その魅力を観光客にわかりやすく発信し、感じていただくことが必要と考えていることから、スポット間のストーリー整理など、歩くほどに楽しめるまちの実現に取り組むこととしています。（行動計画2-1） 福井城址については、平成25年3月に県と市で策定した「県都デザイン戦略」において、城址や中央公園などを一体化した「福井城址公園」を段階的に整備していく方針を示しているところです。</p>
3	<p>福井市観光振興計画（素案）は、中心部の視点が強く、周辺地域の現場の実態が反映されていない。清水地区・越廼地区の住民は、地域の観光資源を実際に動かしている当事者であるが、行政は地域を支える「人」には投資をしていない。担い手が疲弊し続ける限り伸びびが出る。また、現場を知らない者同士で議論しても意味がない。周辺地域を「観光の周辺」ではなく「観光の主役」として扱う政策転換を強く求める。</p>	<p>観光振興の実現にあたり、現場で活躍している地域住民の存在は欠かせないことから、いただいたご意見を踏まえ、基本施策3の行動計画3-4『観光の担い手育成』へ、「地域の観光素材の活用や保存に前向きに取り組む地域住民との協働を進める」旨を追記します。</p>
4	<p>前計画期の取り組みを振り返って課題を分析する中で、成果が見込めずとも方針の撤回や枠組みの変更まではすることはできず、課題認識を新しめに見せることに腐心したように見受けられる。</p>	<p>本計画案は、前計画の課題がいずれも完全な解消に至っていないとの認識のもと、状況のさらなる改善を目指すため、前計画の基本的な施策方向性は踏襲しつつ、新たな課題にも対応した行動計画を整理しているものです。</p>
5	<p>福井市にはそもそも、いわゆる「観光」という言葉でイメージされる集客スポットが伝統的に乏しく、それには向かない地域であることを予め明確にして、振興すべき魅力の対象を場所ではない何かに取り替えていくべき。福井市内で開拓が相応しいのは、「見る観光」ではなく、いわゆる「MICE」のような観光分野ではないビジネスの人集めである。</p>	<p>落ち着いた都市環境や質の高い食、学術・産業・行政機能の集積などを強みとする本市にとって、「人が集い、活動し、関係を深める機会」の創出に注力することは重要なことであると考えており、現在、県と連携して、コンベンションの誘致に取り組んでいるところです。また、本計画案の中でも越前海岸のエモい観光資源を活かした長期滞在の促進に取り組むこととしています。（行動計画2-4）</p>

	あるいは、1日で終わる見聞や体験ではなく、数日滞在してはじめて意義が湧くような土地柄の魅力である。あるいは、1日で終わる見聞や体験ではなく、数日滞在してはじめて意義が湧くような土地柄の魅力である。	
6	インバウンドに向かない福井においても、高単価観光の準備だけが進められているように思うが、福井のような土地柄では、むしろ安価に連泊することができて、複数の市町にある伝統産業の工房をまわって縁を見つけて帰る、といった旅程に見合う施設の方が確保されるべき。	近年ますます多様化する観光ニーズに対応できるよう、バランスの取れた宿泊施設の整備が進められることが重要であると考えていますが、いただいたご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。
7	嶺北連携の中核にある福井市としては、連携調整力に役割を見だし、他の複数市町との間でタイアップ企画を開拓し、宿泊や交通の提供から販路拡大PR事業までのプロジェクトを育成することにより、県内観光経済に寄与することができる。	いただいたご意見を踏まえ、従来の市域にとられず、複数市町と連携した取組を推進してまいります。
8	国が能登の再生支援を観光分野に新たに組み入れている。福井市としても、嶺北連携の中で切っ掛けがあれば能登の生業支援策を検討できるような根拠を、一文書き込んでよいのではないかと。市民や市内の事業者が「利他的」な認識を持つことを行政がサポートする事が、「福」を感じるまちとしてのイメージを上げ、本物の福井の「リブランディング」が生まれてくる。	本計画案は、今後5年で優先的に取り組むべき施策や行動計画を整理するものであり、ご提案の一文を書き入れることは考えていませんが、被災地近隣の都市である本市としては、両地域の観光振興につながる適切な機会が生じた場合には、当然に、能登を含む広域的な連携にも取り組むことができるものと考えています。
9	インバウンドには、オーバーツーリズムの大波もあり、免疫のない地域にとっては慎重を要する時期である。また、今からの観光振興は、「どんな人に来てもらいたいのか」を考える時代になってきていると思う。	インバウンドについては、オーバーツーリズムや言語への対応等、様々な課題があるものと認識していますが、一律に慎重視するものではなく、地域の受入環境を段階的に整えつつ、適切な規模と質を見極めた誘客を進めることが、地域経済の成長の可能性を広げるものと考えています。
10	歴史を遡っても誇りや自尊心が持てる英雄が不在であることが、自慢のしにくい地域の成立につながっていると考えるが、一乗谷や北ノ庄など滅ぼされた側の美学や美德、悲劇の癒し効果に価値が見出される時代が近づいており、むしろ人を引き付ける地域逸話を掘り起こすことができるのではないかと。	現時点では必ずしも広く知られていない事物であっても、その固有のストーリーを丁寧に伝えることで、新たな価値を見だし、来訪につながられる可能性があるものと考えます。いただいたご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。

11	<p>過去にあった控えめながら本物の      思い入れのある事柄も、ストーリー      一としての伝え初めて誇りの再構      築になる。観光や文化を所掌する心      行政の側には、福井の埋もれたあ      象の遺構に対しては価値の理解は      ったのか。形として失われたと      しても、いつか再構築して活用す      る可能性を考え、保存や伝承につ      んで「また来たい」と思わせ      惹きつける魅力は高まらな      う。</p>	<p>現時点では必ずしも広く知られていない事      物であっても、その固有のストーリーを丁寧      に伝えることで、新たな価値を見だし、来      訪につなげられる可能性があるものと考え      ます。      本計画案においても、本市の最大の強みであ      る食文化や、豊かな歴史をもつまちなかの魅      力をストーリー仕立てで整理、発信すること      としています。（行動計画1-2、2-1、      4-2）</p>
----	--	---